

●水環境・生物・生態系 (2) (1-D-10-4~1-D-12-1)

本セッションでは、池沼・海域および干潟の生物・生態系に関する6編の発表が行われた。

1-D-10-4 は、マルタニシ保全のために餌環境を必須脂肪酸およびタニシの炭素収支から評価した内容であった。ω6 系列の必須脂肪酸を多く含み、また、付着状の餌料形態がマルタニシにとって好適な餌であることが示された。マルタニシが少なくなってきた理由として、実際の餌環境の変化から説明できるかどうか、今後の因果関係についての解析に期待したい。

1-D-11-1 は、ヤマトシジミのカビ臭着臭機構に関する報告であり、水域のカビ臭発生時にはシジミのろ過速度や肥満度が低下すること、また、12時間の砂抜きによってもカビ臭はシジミの軟体部に残ることが調査および実験結果から示された。カビ臭産生藻類を摂取する時間とカビ臭着臭との関係など今後の研究の展開に期待したい。

1-D-11-2 は、西表島での干潟およびマングローブにおける底生生物と生息環境との関係についての報告であり、マングローブ域の方が干潟域よりも硫化物量が低く、その結果、底生生物相が豊富であることが示された。河口域から上流に向かっての多地点における調査結果であったが、マングローブ域と干潟域との平均的な比較だけではなく、各地点の塩分など水質との関係も含めた生息環境の評価に期待したい。

1-D-11-3 は、和白干潟のアオサとマクロベントスの季節的消長について報告したものであり、アサリはグリーンタイド形成後に生息深度が浅くなることやグリーンタイド出現の程度によって、アサリ個体数も変動することが示された。

1-D-11-4 は、博多湾海域におけるマクロベントスの出現特性から海底環境を評価した報告であり、北部海域では、多くのマクロベントスが棲息するが、和白干潟前面海域や南部海域では、周年マクロベントスの回復がみられなかったことが示された。

1-D-12-1 は、和白干潟において着底初期のアサリの減耗要因について検討した内容であり、着底場所がアオサ堆積などで不適な環境となるとアサリは別の場所に着底すること、また、着底後の成長や生残は低塩分化の影響を受けることが示された。今後は着底初期アサリの減耗要因を排除できるような対策の検討に期待したい。

(東北大学・工学研究科 野村 宗弘)